

会 議 録 （要 旨）

会 議 名	第6回武蔵村山市市民協働推進会議
開 催 日 時	平成25年10月24日（木）午後6時 ～ 10時
開 催 場 所	ボランティアセンター会議室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：（委員）渡辺龍也、伊東理年、奥原せつ子、比留間英世、高橋茂明、北口良夫、本間由美子、比留間毅浩、山田行雄 （事務局）協働推進課長、協働推進課主査、協働推進課主事
報 告 事 項	報告事項 第4回及び第5回武蔵村山市市民協働推進会議の会議結果について
議 題	議題1 武蔵村山市協働事業提案制度の提案事業の第二次審査について 議題2 その他
結 論 (決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。)	議題1 武蔵村山市協働事業提案制度の提案事業の第二次審査について 提案団体によるプレゼンテーションを2団体実施した。また、採択すべき事業の優先順位は事業番号25-7、25-3、25-5、25-8、25-2、25-4の順の6事業とし、事業番号25-1及び25-6を不採択すべき事業と決定した。 議題2 その他 報告書案は各委員にメール等で確認しながら作成する。また、次回会議は事務局から開催日等について各委員に通知し、募集要項及び審査基準等を作成する上での方向性について検討する。
審 議 経 過 (主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。) (発信者) □印：座 長 ○印：委 員 ◎印：発表団体 △印：協働所管課 ●印：事務局	報告事項 第4回及び第5回武蔵村山市市民協働推進会議の会議録について ● 第4回及び第5回武蔵村山市市民協働推進会議については内容の確認をお願いする。修正等がなければ、ホームページ等で公開する。 □ 修正等はあるか。 -なし- 議題1 武蔵村山市協働事業提案制度の提案事業の第二次審査について ● 前回の会議と同様の内容になるので説明は省き、提案団体によるプレゼンテーションを開始させていただきたい。 事業番号25-1 団体名：武蔵村山市ミニバスケットボール連盟 事業名：ミニバスケットボールを通じた市内小学生の健全な育成 -提案団体によるプレゼンテーション- ※ 開始直後に団体から申出があり、第1号及び第2号様式の差替え分が配布された。 質疑応答 □ 質問はあるか。 □ 本日、提出された提案書には予算書がないが、以前の予算書には講師の報償費がある。講師の報償費の内訳の説明をお願いしたい。 ◎ 午前と午後1回ずつ講師を招いた事業を2日間実施する。 ○ 本日、配布された提案書は協働型事業から団体育成型に変更されて

	<p>いるが、変更した理由は何か。</p> <p>◎ 提案書の申請段階では協働型事業で提案したが、予算が30万円であるため、補助金の交付額の上限が30万円である団体育成型事業で提案した方がよいと思い、本日団体育成型事業に変更した提案書を配布させていただいた。</p> <p>○ 団体育成型事業は、団体の企画力や事業を遂行するための能力などの基礎的な力を高めるための事業が対象であることを理解しているのか。</p> <p>◎ 理解している。</p> <p>○ プロリーグの選手などを招いたミニバスケットボールのクリニックを実施するようだが、事業を実施した際に団体の基礎的な力がどのように高まるのか。</p> <p>◎ コーチなどの指導者の指導力が向上するとともに、クリニックに参加する子どもたちのミニバスケット能力も向上する。</p> <p>○ 本日配布された提案書には予算書がないが、以前の予算書で事業を実施するという点でよいのか。</p> <p>◎ そのとおりである。団体育成型事業の予算の範囲内であるので問題ないと考えている。</p> <p>○ 以前の予算書の内容は本日配布された提案書の内容と一致しているのか。</p> <p>○ 本日配布された提案書は以前の提案書と内容が変更してあるのにもかかわらず、なぜ予算書だけ一緒なのか。</p> <p>◎ 団体育成型事業の上限額は30万円であり、予算額が当初から30万円のため、問題ないと考えた。</p> <p>□ 以前の提案書は具体的な内容ではなかったが、本日の提案書は具体的に記載されている。</p> <p>○ 市内9チーム全てに事業を実施するのか。</p> <p>◎ 学校単位のチームもあるが、複数の学校が合同のチームもある。</p> <p>○ 1つの学校にクラブチームと学校のチームがあるのか。</p> <p>◎ ない。</p> <p>○ 団体は設立してから何年経過しているのか。</p> <p>◎ 約15年である。</p> <p>○ 団体として、事業を通して今後どのようにスキルアップしたいのか。</p> <p>◎ ミニバスケットボールをやったことがない子どもたちに体験してもらいたい。また、どこの学校にも必ずバスケットボールのコートがあるので、そのような環境を活かしたい。</p> <p>○ 本事業の目的は団体の能力を向上させることよりも、事業に参加する子どもたちを増やし、ミニバスケットボールという競技の普及を図りたいと感じるが、どうなのか。</p> <p>◎ 団体に所属する指導員の指導能力向上と子どもたちの技術の向上を図りたい。</p> <p>□ 本制度の募集要項には審査基準として、提案事業が中長期的なスケジュールになっていることや、事業を実施するために団体が事業資金を確保するように努めているのかなどを明記していることを理解しているのか。</p> <p>◎ 団体が事業運営のための資金を確保するような活動はしていない。</p> <p>□ 本補助金を活用して、そのような活動を向上させるための仕組みができていない。本補助金を30万円交付しても団体は今までの活動のままのような気がする。</p>
--	--

- ◎ 補助金は有効に活用していきたい。
 - 本事業を2回実施するようだが、今まで開催しているミニバスケットボールの大会と合わせて実施するのか。
 - ◎ 違う。
 - ミニバスケットボールの大会に係る経費は、参加するチームから参加費のみを徴収しているようだが、それでは団体の資金力はなく、いつまで経っても団体の力は向上しない。ミニバスケットボール連盟に加盟するためには会費を徴収するなどの考えはないのか。
 - ◎ 来年からは各チームから会費を徴収する予定である。また、体育協会からも資金面などで協力してもらえないかなどの交渉は行っている。
 - 連盟という名前だけで実態は個人で活動しているのではないか。
 - ◎ そういう面は否めない。だが子どもからは会費は徴収できない。
 - 子どもから徴収するわけではなく、子どもの保護者を巻き込み会費を徴収するような仕組みづくりを考えないといけない。
 - 団体の規約はないのか。
 - ◎ 規約は事務局に提出している。
 - 提出されていない。
 - 連盟に加盟しているチームは設立当初から増えているのか。
 - ◎ 設立当初から増えていない。
 - 第一次審査では協働型事業の提案書を基に審査を実施した。本日の第二次審査が団体育成型事業の提案書に差し替わるということは、ルール違反である。また、提案書の内容が大幅に変更されているので、相応の審査結果になることは了承していただきたい。
 - 本事業の第二次審査の採点については団体育成型事業の審査基準で採点するべきだと思う。
 - 団体育成型事業の審査基準で審査することでよいか。
- 異議なし-

事業番号25-2

団体名：武蔵村山市ハンドボール協会

事業名：ハンドボールトップアスリート等派遣指導事業

-提案団体によるプレゼンテーション-

質疑応答

- 質問はあるか。
- 提案されているような事業を既に今年度、市内2校で実施しているようだが、学校の授業で実施したのか。また、本事業を学校の授業で実施する理由はなにか。
- ◎ 今年度、実施した2校は学校の授業の一環で実施した。本事業も学校の授業の中で実施したい。その理由としては、学校の授業の中で実施することにより、ハンドボールに興味を持っていない子どもたちも体験できる。
- 本事業を実施する学校は今年度、実施した学校と同じか。
- ◎ 本事業については各学校の校長に決めてもらいたいと考えているので未定である。
- 予算書の委託料が60万円であり、内訳が20万円×3校となっているが、時間などの内訳はないのか。

- ◎ 本事業を委託する会社はハンドボール専門のスポーツイベントの企画会社であり、金額20万円は安い方である。
- 金額の問題ではなく、内訳を教えてください。
- ◎ 詳細な内訳は委託会社しか分からない。講師は1校につき1名で、1時間の事業を1日で4クラス実施する予定である。
- 東京都ハンドボール協会などに講師派遣の依頼はできないのか。派遣会社だと派遣手数料がかかってしまう。
- ◎ ハンドボールは競技人口が少ないので、指導できる人が少ない。また、市の国体推進室が東京都ハンドボール協会に講師派遣を依頼した際は、現在の武蔵村山高校の教師が講師として派遣されたが、東京都ハンドボール協会が派遣する講師は武蔵村山高校の教師のみであり、現在は多忙で講師ができない。
- 協働事業提案制度の趣旨の一つには地域の課題や社会的な課題の解決とあるが、本事業はどのような課題を解決するのか。
- ◎ 子どもたちのコミュニケーション能力が欠けている。また、体力も低下している。本事業を実施することにより、そのような課題に対して効果があると思う。
- コミュニケーション能力と体力の向上が目的か。
- ◎ そのとおりである。
- コミュニケーション能力と体力の向上を図る上で、なぜハンドボールが有効なのか。サッカーなどの他の競技ではいけないのか。
- ◎ ハンドボールは他の競技と比べて試合のテンポが速く、持久力も必要である。
- 学校の授業でこの事業を実施すると、ハンドボールに全く興味がない子どもたちも、学校の授業なので参加しなければいけない。その際に今の理由では有効な競技であることについて理解を得て、学校の授業として実施するのは難しいのではないか。
- ◎ ハンドボールは誰でもできるスポーツである。また、ドッジボールは学校の授業に取り入れられており、学校内では盛んな競技である。ハンドボールはドッジボールに近い競技だと思うので、子どもたちに馴染みやすいのではないか。
- 競技人口が少ないということは、誰でも努力すれば国内でもトップレベルの選手になれると思う。
- ◎ ハンドボールはオリンピック競技ではないので、競技人口が少ないが、競技人口が少ない今であれば努力すれば国内のトップレベルの選手になれる。
- 小学生を競技人口の底辺とし、事業を実施することはよいと思うが、本事業を実施するにあたり、1校につき何回事業を実施し、講師を何回招くのか知りたい。
- ◎ 1校につき1回の事業実施である。
- 事業を実施した直後は、子どもたちの気持ちが盛り上がると思うが、その後はどのように継続させていくのか。
- ◎ 今後もハンドボールをやりたい子どもたちには、ハンドボール協会のクラブチームに加入してもらおうよう促したい。
- 競技人口の底辺を広げるためには、各学校にクラブチームを作る必要があると思うが、そのような考えはないのか。
- ◎ 各学校にクラブチームを作るよりも、現在学校の授業で実施しているドッジボールのような扱いになればよいと思っている。
- 学校の体育の授業では様々な競技を取り入れているので、ハンドボールに要する時間は限られてしまう。

- 学校の授業で数回プロの講師を招かない事業を実施し、その後、プロの講師を招いて実施した方がよいと思う。
- ◎ 本事業では、そこまでのことを考えていない。まず、学校の先生たちにハンドボールという競技を知ってもらい、いずれは月に1回程度、体育の授業に組み入れてもらいたいと考えている。
- 競技人口の底辺を広げるのであれば、1クラス単位で事業を実施するのではなく、学年単位で実施した方がよいのではないかな。
- ◎ 教育委員会が学年単位で実施できる判断をしていただければ、問題なく実施できる。
- 予算書にはハンドボールのゴールを1つしか購入しないことになっているが、1つのゴールを各学校に運んで事業を実施するのか。
- ◎ そのとおりである。
- ゴールが学校に常に設置されていないと、継続して子どもたちがハンドボールをできない。ハンドボールのゴールを3校分計上した方がよいのではないかな。
- ◎ 学校でハンドボールのゴールを管理してもらえるのであれば、3校分購入することは可能である。
- ボールを40個購入する根拠はなにか。
- ◎ 1クラスの生徒数が40人以内なので、ボールが40個あれば1クラスの生徒全員が使用できる。
- ゴールとボールは使いまわしなのか。
- ◎ そのとおりである。
- 本事業を実施した後、各学校の子ども数人がハンドボールに興味を持ち、クラブチームに入ることは考えられるが、それだけでは、競技人口の底辺の広がりとしては足りない。現在、学校の体育の授業ではハンドボールを取り入れている学校はないのか。
- ◎ ない。
- 今年度、実施した事業は各学校1回の実施なのか。
- ◎ そのとおりである。
- 今年度、事業を実施した結果、クラブチームに入った子どもは何人いるのか。
- ◎ 一人もいない。
- クラブチームだとハンドボールに興味を持って、ハードルが高すぎて受け皿になれないと思う。ハンドボール教室なら参加しやすいのではないかな。また、ハンドボールクラブがある学校はあるのか。
- ◎ ハンドボール部がある学校は第五中学校しかないのが現状である。
- ◎ 市で実施しているハンドボール教室は現在4年生までが対象だが、来年度以降は6年生まで対象にすることは考えていないのか。
- △ そのような要望があれば、6年生まで参加できるよう努力したい。
- 市がハンドボール教室の参加者を4年生までに設定しているのか。
- ◎ 過去は6年生まで対象にしていたが、高学年の中には真面目に教室に参加しない生徒もおり、そのような経緯から参加対象を4年生までとしたと聞いている。
- 今後は6年生まで対象を広げるよう市には要望したい。
- △ 6年生を対象外にした経緯をしっかりと把握し、要望に答えられるよう努めたい。
- 以前に6年生を対象外にした状況と現在は違う状況なので、前向きに検討してもらいたい。
- 市が実施しているハンドボール教室は月2回実施しているようだが、ハンドボール協会のクラブチームの練習の頻度はどのくらいか。

- ◎ 週3回である。
- クラブチームの指導員は誰か。
- ◎ 参加者の保護者である。
- そのような保護者は本事業実施後に生徒たちに指導はできないのか。
- ◎ 難しい。
- クラブチームで指導する内容と本事業で講師が教える内容は違うのか。
- ◎ 本事業の講師が教える内容は子どもたちにハンドボール競技に興味をもってもらえるようなきっかけ作りである。
- クラブチームの子どもたちに本事業の講師が教えればよいのではないのか。ハンドボールを知らない子どもにプロの講師が教えても効果がないのではないのか。
- 本事業の継続性を考えるとクラブ活動の指導者が学校を訪問し、ハンドボールをやりたい子どもたちに指導することなどを検討してもらいたい。
- 事務局で第二次審査の集計をお願いする。集計の間の会議は休憩とする。
- 事務局から集計結果を報告

-非公開-

(採択すべき事業の優先順位及び不採択すべき事業について)

- 各委員の意見を踏まえ、採択すべき事業の順位は事業番号25-7、25-3、25-5、25-8、25-2、25-4の6事業とし、不採択すべき事業については事業番号25-1及び25-6の2事業とすることによいか。

-異議なし-

- 今年度については、6事業が採択すべき事業となるが、市の予算は問題ないのか。
- 前年度の実績で内示された場合、予算が足りないので、復活要求をする。復活要求をしても予算が確保できない場合は事業番号25-2及び事業番号25-4が同点であるため取扱いが難しい。
- 予算が確保できない場合は2事業とも不採択でよいのではないのか。

議題2 その他

- 本日の会議の各委員の意見を盛り込んだ報告書案を送付し、確認のみでよいのか、報告書案について会議を開催した方がよいのか、決めていただきたい。
- 昨年度は開催したのか。
- 開催した。
- 各委員意見はあるか。
- 報告書案の文言整理だけなら必要ないのではないのか。
- 本日の会議の中では各委員の意見に大きな差異はないと感じたので、メール等での確認でよいと思うがいかがか。

-異議なし-

	<p>(次回の会議について)</p> <p><input type="checkbox"/> 次回の会議はどのような議題を予定しているのか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 来年度の募集要項や審査基準などを作成する上での方向性について検討していただきたいと考えている。</p> <p><input type="checkbox"/> 次回の会議の開催日等については後日事務局から各委員に通知してもらいたい。</p>
--	--

会議の公開・非公開の別	<p><input type="checkbox"/> 公開</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 一部公開</p> <p><input type="checkbox"/> 非公開</p> <p>※一部公開又は非公開とした理由</p> <p style="text-align: center;">〔 武蔵村山市情報公開条例第8条第4号に定める情報のため 〕</p>	傍聴者： <u> 0 </u> 人
-------------	---	-------------------------

会議録の開示・非開示の別	<p><input type="checkbox"/> 開示</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 一部開示 (根拠法令等： 武蔵村山市情報公開条例)</p> <p><input type="checkbox"/> 非開示 (根拠法令等：)</p>
--------------	--

庶務担当課	生活環境部 協働推進課 (内線： 242)
-------	------------------------

(日本工業規格A列4番)